

会議録（要点筆記）

会 議 名	第5回米原市総合計画審議会
開 催 日 時	平成27年12月21日（月） 午後7時00分～午後8時35分
開 催 場 所	米原市役所米原庁舎 会議室2A
出席者および欠席者	出席者：岩崎恭典委員（会長）、鶴飼修委員（副会長）、西林正夫委員、 振角大祐委員、川崎祐七委員、北川学委員、小竹一男委員、 竹中礼子委員、鏑田鉄雄委員、富岡尚子委員、中野民子委員、 福永ひろみ委員、安田智枝美委員 事務局：山田英喜政策推進部理事、 政策推進課：小寺真司課長補佐、森川誠、川瀬雅史、関沢匡司 傍 聴：1人 欠席者：田中雄一委員、森嘉信委員
議 題	・ 前回のまとめ ・ まち・ひと・しごと米原創生総合戦略・米原市人口ビジョンについて ・ 第2次米原市総合計画の施策体系（素案）について
結 論	・ 第2次総合計画の施策体系（素案）について検討した。今回の結果を参考に施策体系（素案）を一部修正する。次回の審議会では、基本構想（これまでの基本構想と基本計画を併せたもの）素案について検討する。
審 議 経 過	<p>事務局</p> <p>1 開会 （事務局から開会あいさつ）</p> <p>2 あいさつ （会長から開会あいさつ）</p> <p>事務局</p> <p>3 議事 （1）前回のまとめ 【事務局から、前回の概要を説明】</p> <p>事務局</p> <p>（2）まち・ひと・しごと米原創生総合戦略・米原市人口ビジョンについて 【事務局から資料1について説明】</p> <p>会長</p> <p>まち・ひと・しごと米原創生総合戦略の前提となる人口は、日本全体で人口が減少するため、米原市だけが人口が増えていく計画はどう考えても作れません。その中で、具体的にどれだけの人口減にとどめていくのか。そのためには、20代の人口が男女とも転出超過になっているため、ここを出さないようにする。そして、女性をターゲットとした戦略になっています。 人口は2040年ではなく、2060年の人口ビジョンがこれからの公式数字となる</p>

事務局	<p>のでしょうか。</p> <p>人口ビジョンでは、2040年におよそ3万7,000人、2060年にはおよそ3万4,000人を目標としています。総合計画は、平成29年度から平成38年度、2017年度から2026年度までの10年間の計画ですから、この目標シナリオ上の人口である3万8,500人が目標人口となります。</p>
会長	<p>他の自治体でもそうですが、算定における生残率が一定で計算されているので、2040年までの人口を目途とすることが良いと個人的に思っています。人口移動が東京や愛知なども含まれるところが米原らしいところです。総合戦略は平成27年度から平成31年度までの5か年計画であります。総合計画は、どのような構造になっているのか、総合戦略との関係はどうなっているのかについて説明していただいた後、本題の施策体系素案について説明していただきます。</p>
事務局	<p>(3) 第2次米原市総合計画の施策体系（素案）について</p> <p>【事務局から資料2について説明】</p>
会長	<p>まずは人口ビジョンと総合戦略、今回の総合計画との関係について御理解いただけましたでしょうか。総合戦略は平成27年からの5年間です。ですから1年目は終わりつつあるという状況です。その中で、総合計画は、平成29年度からの10年間になりますので参考にしなければなりません。重点的な項目は生かしておかなければなりません。必ずしもそれにとらわれるのではなく、総合計画の方が幅広くやっつけていかなければなりません。ただ、総合戦略は参考にしなければならぬものですから、少なくとも残り4年間の部分については、きっちり押さえておく必要があります。</p> <p>その後、基本構想の中でも一番大事にしなければならない将来都市像、将来の都市のイメージをどのように作っていくか。これは資料2の4ページのところにありますが、よく考えられたなと思いました。第1次の総合計画の「人が元気 まちに活力 風土に愛着」を、ワークショップの意見をつなぐというふうに集約して、「人が元気」とつなぎ、また別の表現にもって行って、それらをまとめて5ページの基本理念、10年後の将来都市像という具合に言葉や都市イメージを膨らませていかれた。このやり方はすごく私は評価できていると思っています。</p> <p>審議会の意見も何らかの形で入っていると私は思っています。ただ、将来都市像というのは言葉遊びというわけではなくて、どのように市民の皆さんと共有できるか。住みよさ実感の「実感」にも思い入れがあるし、「米原」ではなくて「米原市」にしたということにも思い入れがある。この事をどのように市民の皆さんに、しっかりと説明できるのかということが心配にはなりますが、こういった将来像を素案として提示していただいたわけです。</p>

	<p>今日ここで、将来像というものがこういう形でいかどうかということと、それに基づいて基本方針、基本施策を議論させていただいて、これでいいよということになると、基本構想の素案を作成するステップになります。この前段として、審議会としての意見をまとめていきたいと思います。どうぞこの資料2について忌憚のない御意見、あるいは御質問をいただければと思います。</p>
委員	<p>資料1で、人口ビジョンを達成するための目標として生産年齢人口の流出抑制と転入促進がありますが、流出を抑制するためにどのようにされるのでしょうか。基本方針、基本施策など、どこに反映されていくのかわからなかったので教えていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>総合戦略はターゲットを明確にした計画になっていますが、総合計画では、例えば教育の分野では、子どもの時からふるさとの良さや愛着を深めていただくこと。産業経済の分野では、働き口が地元ないと市外に出ていってしまうことがありますので、おもてなしを意識した観光の展開や、農林水産業の6次産業化、女性や若者などの創業支援、新たなビジネスや雇用の創出を図ることなどを進めていきたいと考えています。また、福祉の部分では、支え合いのまちづくりを進め、安心できる仕組みを作りたいと考えています。教育、産業、福祉の3つが大切であると考えています。</p>
委員	<p>もう一つ教えていただきたいのが、大学に行くために外に出た子どもが大学を出て帰ってくれば、流出が増えたことにはならないのでしょうか。</p>
事務局	<p>例えば、彦根と米原の出入りで、差し引きとして外に出ていった人が多いというのが流出と考えています。出ていっても戻って来られたら流出ではないと考えています。高校は市内に2校しかありませんので、進学となると、いろいろなところに出て行かれると思いますが、こちらへ帰っていただければ流出にはなりません。米原市に戻って来たら、安心して仕事ができるまちになったらいいなと思っています。</p>
会長	<p>総合戦略は20代、30代を中心とした生産年齢人口の流出抑制、総合計画は全世代にわたって流出を抑制していくようなことを考えたいという感じではありますね。</p>
事務局	<p>そうです。子育てしやすいまちづくりということは総合計画にも書いていますが、総合戦略ではターゲットを絞りこんだやり方をします。総合計画はもっと幅広に考えて、施策としてパッケージで弱みをカバーしていくような仕組みでありたいという思いで原案をつくりました。</p>

会長	<p>子どもはいずれ帰ってくるように、サケが母川に帰ってくるように教えたいし、20代、30代に働く場を用意して帰ってきて欲しいし、70代には健やかに老いるという形で、例えば、帰郷する人がいたら健康寿命を保ったまま帰ってきて欲しいというような、そういう形での転入の促進、流出の抑制を全世代に渡って考えて行く。総合計画では、そういう感じになりますね。</p>
委員	<p>施策の面で一緒になるのかもしれませんが、ここで生まれた人が戻ってくる、戻ってきて欲しいということだけではなく、全く米原市を知らない人たち、ここで生まれていない人たちが米原市に魅力を感じてここで暮らそうとか、僕は、どちらかというところの方がかなり大事ではないかなと思います。それはそのような観点で考えているということですか。</p>
会長	<p>いわゆる移住、定住というものです。</p>
事務局	<p>施策体系素案の、5番の②都市基盤の中の定住促進ということでも考えていますし、将来像の中に「住みよさ実感米原市」という言葉があつて、この説明文の中の最後の方に書いていますが、住みよいまちをつくることで、外の人からも米原市っていいなと思ってもらえるような、そんな施策を展開し、市外からも来ていただけるような地域づくりをしていきたいと考えています。</p>
会長	<p>そうすると、米原を知らない人にどのように米原を知らせるかという戦略の話が大事になってきますね。</p>
事務局	<p>シティセールスプランを策定していますので、これで米原市をPRしていくこととなります。計画の位置付けについて冒頭で担当からも話をさせていただきましたが、資料の1ページに今回の総合計画を作成するに当たっての資料を付けています。この中にシティセールスプランは出ていませんので、入れさせていただきます。その方がわかりやすいと思います。シティセールスをして、どんどん米原の魅力を発信していきたいと思います。</p>
会長	<p>それは必要でしょうね。いかがでしょうか。どうぞ皆さん御自身の得意な分野で御発言願います。「ともにつながり ともに創る 住みよさ実感 米原市」という標語でいけそうかなと。そして、そこから出てくる将来像を達成するための柱について議論することになります。それぞれの得意分野で、こういう柱でいいかどうかということをお確認いただければと思います。それから、「新しい公共」という言葉は、水源の里プランの「新たな支え合いのしくみづくり」という言葉を使っていきますよという説明をされましたが、それでいいんですね。</p>

事務局	<p>そうです。水源の里を米原市全体に広げた時の考え方の中に、支え合いのしくみづくりを今後やって行くとしていますので、それを引き継いで行きたいと思います。</p>
委員	<p>結構、まとまっているなと思っています。言うことはほとんどないかなと思います。一つだけ、福祉などに対する皆さんの満足度が高いと先ほどおっしゃったと思います。8割の方が愛着がある。新しい人が住まない理由の一つが、仕事がないということは仕事をリタイアされた、例えば、60歳以上の方を引っ張って来るということであれば、デメリットの分をなくせて、人口を増やしていきたいというところは確保しやすいのかなと思います。高齢の方のほうが自然に対する愛着も求めるものは高いと思います。でも、税金という意味では、多分厳しいと思います。ということは、新しく住んで欲しいという人は、やっぱり生産世代とかに限定される。そこをファジーにしないで、例えば、30代の方がまちに求めることと60代の方が求めることは全然違うと思います。本当に必要なところに対して必要な施策が打てるような感じになるといいのかなと思いました。</p>
会長	<p>それはなかなか難しいですね。総合計画となると、どうしても八方美人的になってしまう部分があるんですね。</p>
委員	<p>福祉の満足度が高いのは良いと思います。住みやすいということですからいいとは思いますが、それだけではなく人を呼んで、住んでもらいたいということであれば、やっぱりターゲティングを明確にしていかないと難しいのかなと思います。</p>
会長	<p>そうですね。</p>
委員	<p>現在、農業をする人がかなり減っていて、大規模な形で農業はされていますが、将来農地は減る予定ですか。大幅に減るということはないでしょうか。</p>
事務局	<p>登記上の農地としては残っていると思いますが、耕作されている農地は減っていくのではないかと思います。集団で農業をする組合などにお任せする人は増えていって、農業をする人は減っても、大規模でやっているところは少しずつ増加している傾向が見られます。</p>
委員	<p>農商工連携ということも、農業をたくさんやっている所に対しては農産物をちょっと加工して売るといった形でも発展させていけば仕事が増えます。そうすると働く場所があることになるので、その辺りもちょっと発展させていけるといいな</p>

事務局	<p>と思います。農業を続けるに当たって補助を出す事はありますか。</p> <p>農業は国の施策に委ねている部分が多くあります。市の中で議論をしている中で、独自の施策が欲しいという話もしています。今おっしゃっているような支援策も突破口になるかどうか分かりませんが、今、少しずつ始めていて、農家が外から若者を受け入れて育てるといった研修制度も設けていますし、少しでもいいから産直で出すようなことも始めていますので、そういうことから始めていったらいいかなと思います。農業は基幹産業であると認識しています。</p>
会長	<p>3ページの(5)課題の集約に農商工連携など、今、おっしゃったことが課題として出ていますね。その下に地域課題に対応するための地域ビジネスの推進が必要ということが書いてあります。僕はまさにこれだと思います。要するに、都市ではこれからどんどん高齢化が進んでいくわけですから、ちょっと元気なお年寄りがいろいろな形で生活に支障のあるお年寄りの面倒をみるといった生活支援でちょっとした小金を稼ぐようなビジネスができたり、農村部ではそれを産品加工で、0.5人分ぐらいの雇用が発生したり、本当に小さな話をたくさん作っていくというのがおそらく米原の魅力になっていくと思います。ですから、地域課題に対応するための地域ビジネスの推進や、そのための支え合いの仕組みというものを作って行かなければならない。そういうことが課題になると思います。そうすると、そのような仕組みを作ることが全世代にわたっての魅力づくりになっていくのではないかなという気がします。</p>
副会長	<p>確認したいことがあります。今、人口が減少していくという話がベースになっていますが、米原市の市内総生産や世帯所得は下がっていくという前提で考えたらよろしいでしょうか。今、コミュニティビジネスを推進するといっても、必ずしもお金が増えるわけではないと思いますので、総生産、世帯所得が減っていくというような認識で考えてもよろしいでしょうか。そういう時に住みよさ、実感というのは何なのかということが出てくると思います。今の若い人たちはお金が安くても生きがいとかやりがいを大事にして働く場を見つけて農業に転身したりしているわけですね。そういうことを考えると、あくまでも所得や総生産は下がっていくのはやむを得なくて、それよりも生活、ライフスタイルが豊かになるような米原市ですよということを言っているのかどうかを確認したいのですが。</p>
事務局	<p>人口が右下がり減っていくような状況で、子どもが減って、生産年齢人口が減っているということは毎月お金を稼ぐ人の割合も減っていくことになりますので、長い目で見ると減っていく傾向にあると思います。米原市ならではの良さを考えると、日々の生活の中で、いろいろな経験をしたり、まちづくりに参加したり、地域で支え合ったり、自分のつくった農産物を直売所に出したりとか、趣</p>

副会長	<p>味の分野が仕事になったり、いろいろな意見があると思いますが、生活の満足感やゆったりとした暮らしではないかと思っています。</p> <p>私は東京で働いていましたから、1時間満員電車で揺られて通勤していました。滋賀県に来て10年経ちますが、こっちに来て私は自分自身の持っている時間が非常に豊かになったので、それは良かったなと思っています。そういうような魅力が米原市にあると思います。</p>
委員	<p>まち・ひと・しごとのモデルに一番に女性や若者が活躍するまちをつくとあります。私自身、個人事業主として創業8年になりますが、つい最近、米原市の創業塾を卒業して、新たなビジネスで女性の雇用を生み出せないかということの前段階として、補助金で内職の貸出し用のミシンを買って、在宅で収入を上げてもらう事をやり始めました。安定するまでに潰れるという不安と日々戦っているので、ちょっとこれは理想論だなと。一番に掲げてもらって、実践しかけているものからしてみたら理想論を言ってくれるのはいいけれども、それまでにうちは潰れるんじゃないかと。内職ですら大変です。</p>
会長	<p>内職がすごく大変というのは、どういう意味で不安に思っているのですか。</p>
委員	<p>技術職なので、ものになるまでに教育しなければならない。</p>
会長	<p>投資が回収できないということですか。</p>
委員	<p>待っている期間に、やっぱり操業したら何か月かは収入がないと思わないといけないというのも分かっているんですが。女性の一人として、やりかけた者としてみると重いなど。理想は分かるんです。私もわくわくするので、女性を雇ったモデルケースになったらいいなど。私も神戸で技術職として働いていて、楽しかったですし、憧れるような職業で華やかなところにいましたが、やっぱり米原が良くて帰ってきて、本当に米原で生活していていいと思っています。子どもも米原のお家芸のスポーツをやってみんなから大事にしてもらえて、本当に良かったと思って、子育てが終盤になったから仕事をしようと思ってやり出したんですが、甘くはありませんでした。ついてくる人がどれだけいるかなど。相当なサポート体制がないと難しいと思います。</p>
会長	<p>そういう安心感のようなものがないといけないと。安心して安住してしまっても困るけれども、それがまさに米原で何かをやるという時のセーフティーネットはちゃんとありますよという話なんですね。</p>

委員	<p>私もやり始めて、大丈夫、米原ならやれるよとみんなにセールスしていただけるので、後をついて来てくださいと言えるけれども、その辺りを知っていて欲しいなと思います。</p>
副会長	<p>住みやすさに含まれるのかもしれませんが、働きやすさというか、ゆるさ加減というか、そういう意味が込められているといいかなと思います。</p>
委員	<p>女性でしばらく社会から離れていた人を雇用する時は、相当なことがありますので、女性に期待していただいて非常にありがたいのですが、その辺も御理解いただける米原市であればチャレンジしてみたいなと思います。</p>
会長	<p>たぶん補助金は探せばないわけではないと思います。ただ、一つはそれに頼ってしまうと、補助金の切れ目が事業の切れ目になってしまうという可能性がありますから、あくまでも補助金ですから、そこは注意しなければなりませんね。ただ、適切なアシスト、つまり、地域でトライしようと思ったら、女性に限らず若者やシルバーの方が事業を始めようと思った時にちゃんとセーフティーネットがあるよという、そんなまちでありたいなということが一つあります。そういう表現がこの中の産業経済やいろいろなところにあるといいなと思います。どうでしょうか。この際、お考えの部分をどうぞ。</p>
委員	<p>人口ビジョンの中で、例えば、10年後に3万8,500人という想定だったと思いますが、3万8,500人の中の年齢別でいくと高齢者の方がかなり多いのではないかと思います。そうなってくると、いわゆる限界集落的な集落が出てくるんじゃないかと思います。そうした中で、まちづくりを進めるための基盤としての関係で、特に自治会の枠を越えたまちづくりということが重要になってくると思います。防災についていうと、自助、共助、公助というようになってきますが、大事なのは共助だと思います。限界集落のところでは共助といっても、なかなか難しいものが出てくると思います。やっぱり優先して住める地域がないと、安全も守られないかなと思います。項目でいうと、新しい地域の仕組みづくりになってくると思いますが、その辺のところを最重要課題として進めてもらえるようなことがあるといいと思います。まちづくりを進めるための基盤というのは、資料2をみると全体が青くなっていますが、全部に関係していくわけですね。</p>
会長	<p>そうですね。</p>
委員	<p>計画的に、どこかのモデルを作って進めていってもらうぐらいの考え方をしないと、単に必要だというだけでは防災の面からいくと安全が保たれないのではな</p>

<p>会長</p>	<p>いかと思います。消防団も高齢化していきますから、なかなか防災面は難しいなと思っています。</p> <p>確かに新しい地域の仕組みづくりというのは、これも合併直後から、いわゆる地域創造会議であるとか、いろいろな取組をしていますが、横で見ているような形にはなっていないなという印象を持っています。これは今後の10年の間にはより人口減少が進んでいくわけだし、まさに限界集落が出てくるなかでの話ですから、これをやっていかざるを得ないだろうなと思います。特に、ここに自治会支援と書いてありますが、今年の国勢調査は世帯数が最高になる可能性があります。世帯数も次からは減り始めるわけです。そうすると、世帯主を構成単位とする自治会というのは、世帯主がいなくなってしまうんですから、自治体は構造的に弱体化せざるを得ない。ですから、今はまだ自治会がある程度頑張っている間に、それに代わって個人や地域の企業などを集めた地域自治組織を作っていくとまずいぞという感じはします。特にその中で限界集落を抱えている地域についていうと、やっぱり限界集落をどこまで維持するかという問題はどうしても出てこざるを得ないだろうし、そのときに小さな拠点を作っていくというのも一つあるでしょうね。いわゆる道の駅であるとか、既存の鉄道駅の周辺にいろいろな機能を集めてしまう。コンビニやちょっとした診療所であるとか、道の駅周辺に集めて、そこに各集落からバスを回すということも考えていかざるを得ない時期に来ているのだろうと思います。そのための小さな拠点というの重要だろうと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>40代の女性の会話の中で、わけあってご主人が病気で亡くなられたとか、事故で亡くなられた、もしくは一人になられたとかで、米原市は老後お一人様では住めないよねと。車の運転ができなくなったら住めないまちだというふうになら判断されているので、今のうちに長浜や彦根に出ていこうかなという女の人は結構多いんです。主人がいても、車の運転ができなくなったら本当に住みにくい。</p>
<p>会長</p>	<p>それはありますね。車の運転ができないだけではなくて、してはいけない人がこれから増えますしね。そういう意味でいうと、公共交通を車の代替ぐらいにできるかという、これはなかなかしんどい話です。</p>
<p>委員</p>	<p>拠点が近くにあったら。</p>
<p>会長</p>	<p>そうですね。拠点がある、それから必要な時に住民で移動できるような仕組みを作ってしまうとか、そういう話というのはあるでしょうね。</p>
<p>事務局</p>	<p>ただいまのお二方のお話をお聞きしましたが、今度の総合計画で取り組んでい</p>

	<p>かなければならないと思っています。PR不足もありますが、地域連携の助成制度があり、実際に連携されている所もあります。消防組織も見直そうかという発案もされています。自治会の中でも事務局がしんどいというところもありますので、事務局だけを複数でやろうとか、そういう申し出をいただいているところもありますので、それをさらに拡大していく必要もあると思います。</p> <p>公共交通についても見直しを始めています。まいちゃん号という名前を耳にされたこともあると思いますが、まいちゃん号は予約が必要ですが、フォローをする手段の一つであるかなと思います。まいちゃん号が走っていない地域もありますので、市全体の公共交通はどうあるべきかという調査を始めさせていただいています。それらを含めて、次の10年でしっかりと対応していきたいと考えていますのでよろしくお願いします。</p>
委員	<p>教育で、これは言葉の言い方だけで中身は十分わかっていますが、「ふるさとを愛し、誇りにする子どもが育つ」という言葉で、これは別の委員会だったか忘れてしまいましたが、子どもに仕向けるみたいな感じがして好きじゃないということを別の会議で言ったことがあります。その時は、子どもが誇れる米原市というふうに言葉を変えてもらいました。ただ、でもここに入れるのだと、ちょっとそういうことは難しいように思います。</p>
会長	<p>ちょっとしんどいですね。教育の話をしていますからね。</p>
委員	<p>実際にやる時に間違えなければそれでいいとは思いますが、ちょっと言葉が気になるところがあります。実際やってもらう時に変なふうにならないようにということです。</p>
会長	<p>気を付けたい部分でありますね。</p>
委員	<p>5ページ、子供という表記になっていますが、「子ども」としていただくということと、それから(2)の就学前からつながりのある学びの環境が整いとありますが、教育の中には幼児教育とかいろいろありますので、学校のあとに(園)を付けて欲しいと思います。この3か月でここまでまとまるのだなと思って、私もすごいなと関心しています。これをイメージした時に、いったいどういうものかというイメージが自分の頭の中でできていかないのですが、10年かかってして行く事だからということもあるのでしょうか。伊吹山テレビで見ましたが、米原の駅の構想があるんですね。そういう構想とこれがどのように連動する感じでイメージしたらいいのか、これがまちづくりの中にどういふふうに入り込んで行くのか、私たち一市民でいうとわかりにくい。米原市が進めている計画を総合的に教えていただけたらイメージができると思っています。</p>

<p>会長</p>	<p>おそらく今の話というのは、皆さん大きな異論は今のところありませんから、この会議で施策体系の素案はこれでいいですよという話になりますよね。そうすると次はより細かな事業がずっと網羅された基本構想素案を検討することになります。そうすると身近な事業が出てきますので、その中で鉄道駅の機能を生かしたにぎわいのまち、駅活性化についてもはっきりしてきてくるのではないかと思います。また、保育園や幼稚園など馴染みのあるものが出てくるのだらうと思います。そんな理解でいいでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今日はまず柱立て、骨組みの部分となります。この骨組みで次にいってもいいとおっしゃっていただければ、次にこれに対して身近な事業と関連しながら、イメージできるようなかたちで整理したいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>夢が広がっていくということですね。</p>
<p>会長</p>	<p>夢が広がる一方で、一つ一つの事業に目を奪われてしまうんですよ。だから、「ともにつながる ともに創る 住みよさ実感 米原市」というのが、そのうちどこかに行ってしまうという可能性もあるんですね。そこがものすごく難しい。みんなでこれを目指して、こんな事業をやっていくはずなのに、個々の事業のことばかりになってしまうこともあります。だから基本構想として1冊の冊子にまとめておく必要があります。この事業は全体でいうと、こういう米原市を作るための事業なんだよね、というのをまとめておかないとついつい事業をやること自体が目的になってしまう。これは市の各セッションが陥りがちな問題でもあるし、市民の側もどちらかというと、住みよさ実感米原市というのは計画だけの話であって、関係ないと思ってしまう。そうではなくて、市民がいろいろなことをやるのが前提になっているわけだから、そうするとそれが住みよさ実感米原市につながるぞという、バイブルになっているような計画書でないといけないわけですね。みんながちゃんと参照できるようなものであって欲しいなと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>たくさんご意見をいただきました。今日のところはどうか。5ページの施策体系の素案というところで、将来像「ともにつながり ともに創る 住みよさ実感 米原市」という標語、将来像を元に5本の柱プラス都市経営という基盤の部分、この6本の柱の下で分野別計画を具体的に検討していくという次のステップの作業に入っていくということでよろしいでしょうか。その中でも特に分野別の計画の中で、小さな拠点の話であるとか、いろいろと重点を置くべきことについてお話をいただきました。それも参考にしながら、分野別計画について、より詳しく書いていくような、次のステップの作業に入っていただければと思っています。</p>

事務局	<p>4 その他</p> <p>(1) 次回の審議会について</p> <p>本日、御審議いただきました内容から、基本構想素案をまとめたいと思います。これを来年の3月上旬ぐらいに皆さんにお示ししたいと思っています。また後日御案内させていただきたいと思いますのでよろしくをお願いします。前回の審議会にて日程調整の御意見をいただきましたが、今後については会長、副会長の日程を優先させていただきまして、できるだけ早く皆さまに日程をお知らせさせていただく方法で進めたいと思いますので、よろしくをお願いします。</p>
副会長	<p>5 閉会</p> <p>お疲れさまでした。なんとか骨格ができましたので、これでまた事務局の方に進めていただいて、今度はまた分厚いものが出てきますので、これを審議することが新しい年の仕事になりますので、また一つよろしくをお願いします。寒くなりましたので、お身体に留意いただき、良い年をお迎えください。ありがとうございました。</p>